

第50回三重県少年剣道錬成大会要項

1. 主 催 三重県剣道連盟
2. 後 援 三重県・三重県教育委員会・中日新聞社（各申請中）
3. 主 管 三重県剣道連盟 鈴鹿支部
4. 日 時 令和 7年5月24日（土） ※開場 8：20
受 付 8：20～ 審判会議 8：50 開始式 9：30
5. 会 場 三重交通Gスポーツの杜 鈴鹿
三重県鈴鹿市御園町 1669 （059-372-2250）
6. 出場資格 三重県在住の小中学生で各支部に所属するもの
7. 試合種目 <団体戦> ①小学生の部、中学生の部、それぞれ各支部3チーム以内とする。
（道場単位でも可。ただし、必ず支部を通ずること）
②1チーム選手5名・監督1名で構成し、男女を問わない。

<個人戦> ①小学生3・4年の部（男女を問わない）
②小学生5・6年男子の部
③小学生5・6年女子の部
④中学生男子の部
⑤中学生女子の部
各部門において、
団体戦3チーム出場
→3名以内とする。
団体戦2チーム以下出場
→2名以内とする。

※主管支部は団体戦各部門4チーム以内、個人戦は、各部門において団体戦4チーム
出場は6名以内、団体戦3チーム以下出場は4名以内とする。
8. 試合方法 別紙実施要項の通り
9. 申込方法 ①別紙申込書にて、参加料を添えて三重県剣道連盟まで（FAX・メール可）
②参加料 団体1チーム 2000円
個人1人 500円（団体戦選手も参加料必要）
締切 令和 7年5月9日（金）必着
10. その他
 - 1) 団体戦の選手変更は、受付で申し出てください。立ち順は変更できません。
 - 2) 紅白目印（タスキ）は、各チームで準備し、支部名明記の名札を使用してください。
 - 3) 前年度の優勝チーム、個人は持ちまわりの優勝旗・優勝杯をご持参ください。
 - 4) 本大会は傷害保険には加入しておりません。大会中の傷害等については応急処置のみとします。
 - 5) 所属・氏名、大会時の写真を、プログラム・試合掲示・HP等に掲載しますのでご了承ください。
 - 6) 悪天候の場合は急遽延期または中止となる場合があります。連絡は各支部事務責任者に致します。
 - 7) 面をつけた時は、シールド又は面マスクを着用してください。
 - 8) 団体戦の掲示用オーダー用紙は三剣連にて準備いたします。
 - 9) 駐車場に限りがありますので、乗り合わせでのご来場にご協力下さい。

三重県少年剣道錬成大会実施要項

主催 三重県剣道連盟

1. 大会内容

<団体戦>

(1) 各チームの初戦は下記の基本判定試合と一本勝負の2試合を行う。

(ア) 試合の内容 a) 切り返し、打ち込み稽古 b) 1本勝負

(イ) 基本判定試合内容の詳細

監督元立ちで、主審の合図により先鋒の選手より下記の基本を続けて行う。

切り返し……………正面打ち→前進して左右面4本、後退して左右面5本→正面打ち、以上2回繰り返す。

剣道指導要領参照

打ち込み稽古……「打ち込み稽古」とは、指導者(元立ち)が与える打突の機会をとらえて打ち込んで

打突の基本的な技術を体得させる稽古の方法である。

従って、充実した気力で遠間から大技で、正しく・間合い・姿勢などに留意し基本技・

連続技・体当たり・引き技等を繰り返し、打突させる。

剣道指導要領参照

◇時間は、切り返し・打ち込み稽古を含み40秒とする。(各試合場の時計係が計時を行う。)

◇元立ちの竹刀の長さも、選手と同じ竹刀を使用する事が望ましい。

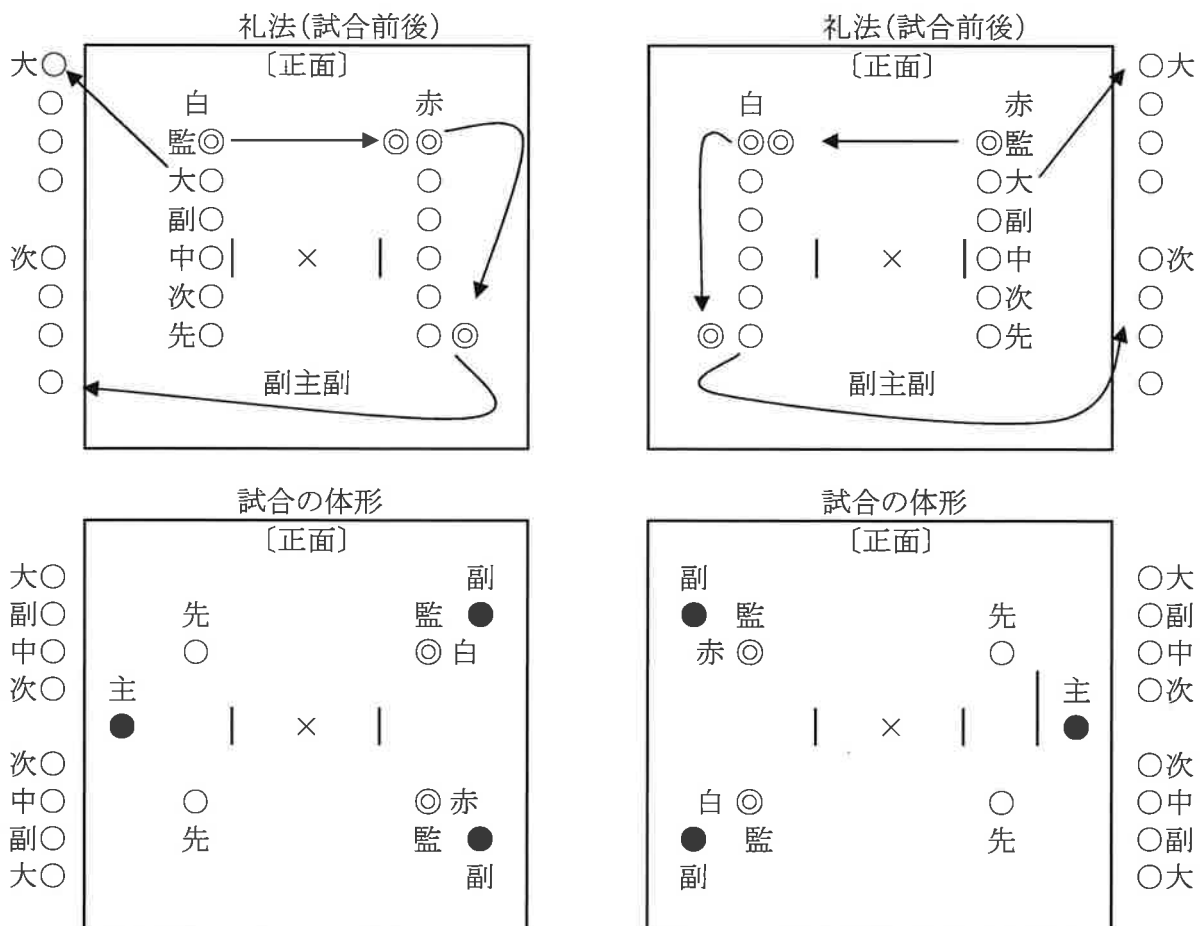
◇切り返し終了後引き続き打ち込み稽古に入る。(元に戻らない)

(ウ) 基本判定試合及び審判要領

a) 試合開始及び終了の際の相互の礼は、監督・選手全員が面、小手をつけ竹刀を持って行う。

b) 相互の礼及び試合の体形は、試合場により下記の通りとする。

正 面



c) 試合の開始については、監督及び選手は9歩の間合にて立礼をしたのち開始位置にて先鋒より蹲踞で待機し、主審の「始め」の宣告により40秒で切り返し、打ち込み稽古(元にもどらない)を行う。

d) 主審の「止め」の宣告により打ち込み稽古を終了し、判定を待つ。

- e) 勝敗は、切り返し、打ち込み稽古の総合判定とする。(判定基準は下記の通りとする。)
- f) 審判員は、主審の「判定」の宣告で勝旗(赤・白)を挙げる。(判定には引き分けは認めない。)
- 主審は勝旗を調べ「何対何、赤(白)の勝ち」と宣告する。

(主審は自旗と勝敗が異なっても自旗を変えない)

(イ) 試合要領と勝者の決定方法

- a) 試合は基本判定試合と1本勝負を先鋒→大将の順に行う。
- b) 1本勝負の試合時間は1分とし、勝負の決しないときには引き分けとする。
- c) 勝者の決定は基本判定試合・1本勝負の勝者数・総本数の順により決定する。同数・同本数の際は基本判定試合で勝ったチームを勝ちとする。(1本勝負での勝ち本数は1本とする。)

(例)

	先 次 中 副 大					本 数 — 勝 者 数	総 本 数 — 勝 者 数	
	鈴木	高橋	渡辺	加藤	田中			
A支部	1	②	1	1	②	$\frac{7}{2}$		基本判定試合
	④		X	④	X	$\frac{2}{2}$		一本勝負
B支部		③	X		X	$\frac{1}{1}$		一本勝負
	②	1	②	②	1	$\frac{8}{3}$		基本判定試合
	斉藤	中村	山本	小林	佐藤			

- d) 基本判定試合が終われば3本勝負とし、勝負を決する。
- e) 当該チームが、赤・白どちらになるかはトーナメント戦組合わせの若い番号を赤とする。
- (2) 基本判定試合終了後の試合は下記により行う。
- (ア) 全日本剣道連盟剣道試合・審判規則とその細則に準ずる。
- (イ) 試合は3本勝負、試合時間は小学生は2分、中学生は3分とし、勝負の決しないときは引き分けとする。
- (ウ) チームの勝敗は、勝者数、総本数により決める。同数の場合は代表者戦を行い、選手は任意とする。
- 代表者戦は1本勝負とし、試合時間は2分ごとに区切る。
- 延長2回目終了後、5回目終了後、とその後は延長3回ごとに休憩を入れる。

(3) 基本判定試合判定基準

- (ア) 正しい礼法・着装などができているか。
- (イ) 充実した氣勢で大きく、正しく、気剣体の一致で打っているか。
- (ウ) 切り返し
- (a) 竹刀の振り方は正しいか。
- (b) 足の運びは正しいか。(退き足が歩み足にならないか)
- (c) 左右面を打つ角度が約45度になっているか。
- (d) 「正面打ち」の時一足一刀の間合いから打っているか。
- (e) 竹刀の打突部で打突部位を正しく打っているか。
- (f) 「左右面打ち」の時、左こぶしが正中線を通り相手の見えるところまであがっているか。
- (g) 「正面打ち」の時、両腕が自然に伸び左こぶしが中心(みぞおち)に納まっているか。
- (h) 最後まで気合いと体勢が崩れないか。
- (エ) 打ち込み稽古
- (a) 足さばきが正しいか。
- (b) 技に適した足さばきができていないか。
- (c) 間合取りが適切か。
- (d) 技が正確(気剣体一致)であるか。
- (e) 最後まで気合と体勢が崩れていないか。
- (f) 残心がなされているか。

<個人戦>

- (1) トーナメント方式による。
- (2) 試合時間は、小学生2分、中学生3分の3本勝負とし、勝負の決しない場合は小中学生とも、延長戦を勝負の決するまで行う。
- 延長戦は1本勝負とし、試合時間は2分ごとに区切る。
- 延長2回目終了後、5回目終了後、とその後は延長3回ごとに休憩を入れる。

2. その他

竹刀の検査は行いませんが、各監督は選手の竹刀の点検を各試合ごとに充分行ってください。

特に、ビニールやセロテープを巻いた竹刀は使用させないでください。